

市町村名	久米島町						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 - 久米島紬販売促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化		
					-1-(4)		
事業内容	久米島紬の付加価値を高め販路拡大を図るため、消費者ニーズに即した商品開発や新商品の展示会やファッションショーの開催、問屋呉服店への販即訪問等を支援した。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,407	2,250			
		(b)予算現額	1,914	2,250			
		(c)増減額(b-a)	493	0			
		(d)前年度繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	1,914	2,250			
	執行状況	B.執行済額	1,914	1,997			
		うち交付金充当額	1,531	1,597			
		次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.8%				
予算の状況の説明	・不要額253千円は、展示販売会の収益に伴う補助金の減額である。 ・当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成目標を鑑みて適正であったと考えられる。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度(2-)	25年度	26年度(2-)	27年度(2-)	
	・島外での展示会開催数 6回	目標	(4回)	(6回)	()	()	
		実績	5回	5回			
	・商品開発試作品製作数 6反	目標	(-)	(6反)	()	()	
		実績	-	5反			
達成状況説明	・新たな販路を開拓するため、展示販売会を5回開催した。 ・草木染めの試作品を5反製作した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度(2-)	25年度	26年度(2-)	目標値(30年度)
	・島外での展示会開催数 6回	目標	()	(4回)	(6回)	()	()
		実績	/	5回	5回		/
	・商品開発試作品製作数 6反	目標	()	(-)	(6反)	()	()
		実績	/	-	5反		/
	【参考指標】 反物売り上げ額	目標	()	()	()	(7,000万円)	(7,800万円)
		実績	/			7,100万円	/
	【参考指標】 小物売り上げ額	目標	()	()	()	(1,000万円)	(1,750万円)
		実績	/			1,000万円	/
	進捗状況説明	当初は6種の原料を用いて6反を目標に開発に取り組んだが、1種は色が馴染まず製品化できずに、5反が完成品となり目標を下回った。 問屋に対し、新しい染め技法「大地染め」を用いた反物を、原料、染め方の特徴を説明し商談を行った。 「大地染め」の色合い、風合いをPRするため、顧客の多い東京・銀座の問屋にて展示販売会を行った。 反物売り上げ額は目標達成しているが、平成25年度で開発した「大地染め」は、染めの実績が浅く技法が浸透していない。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>当初は6種の原料を用いて6反を目標に開発に取り組んだが、1種は色が馴染まず製品化できずに、5反が完成品となり目標を下回った。</p> <p>「大地染め」の反物については、色合いなど高い評価を受けたが、染めの実績が浅く、技法が浸透していないため、問屋からの発注が予想より下回り売上目標額にとどかなかった。</p> <p>問屋だけの展示会及び販売ではなく、直接、消費者に久米島紬の魅力伝え、販売する取り組みが必要である。(これまでの富裕層や年配の客層に加え、若者や男性の客層を取り込み、売上増加に繋げる取り組み)</p> <p>「大地染め」は熟練を要する技法であり生産者が限定されていることから、多くの織子が生産できるよう染色の指導体制を構築する必要がある。</p>	<p>原料の選定を行う際には、原料の特色だけでなく、その原料が染色力を持ち合わせているか予めテストを行う。</p> <p>問屋・一般消費者への認知度を高めるため、展示会や専門誌、ホームページ、リーフレット等を活用して情報発信を積極的にを行う。</p> <p>新商品の開発にあたっては、染色だけではなく、幅広い年齢層に受け入れられるデザインへの改良等も併せて行う必要がある。</p> <p>「大地染め」が新製品のため、新しい染め技法を習得した者に限定されているので、すべての織子が生産できるよう実技指導を行う。</p>

今後の取り組み方針

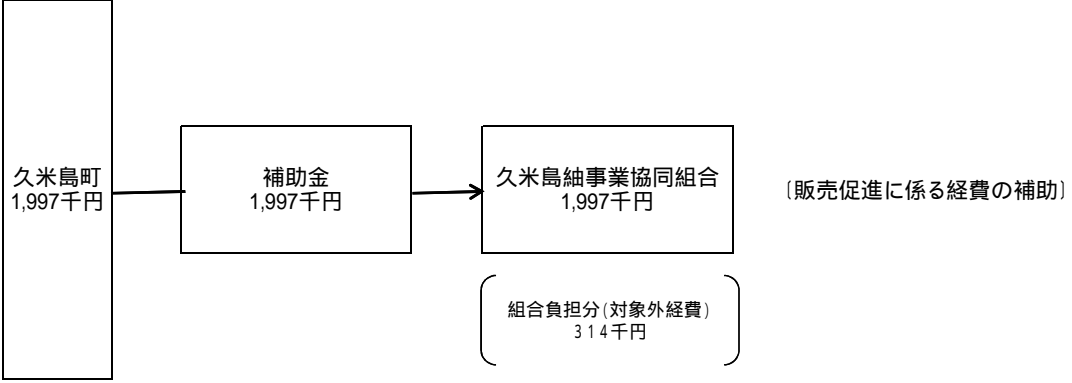
久米島紬は、国の重要無形文化財にも指定される伝統的な色柄を継承しながらも、新作にも積極的に取り組んでいることをPRし、他の織物と差別化を図る。展示販売会等で織子自ら久米島紬の魅力について、実演(機織り・紺くくり)や講話(紬の製作過程等)を行いPRに努めるほか、着物専門誌やホームページを活用し、久米島紬の魅力や「大地染め」製作工程や、販売会の情報等の発信に努めるほか、顧客などにDMを送付し情報発信を積極的に行う。

販売促進のため、物産展等でアンケート等によるニーズ調査を実施し、親子・夫婦でまとめて購入してもらえるような幅広い客層幅広い客層に受け入れられるデザイン、柄の製作に取り組む。

久米島紬事業協同組合にて、すべての織子を対象に、新しい染めの技法の講習及び実技指導を年4回程度実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
2,311	1,997	1,597	400	314



資金の 使途の 流れ、 点検 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p> <p>受益者負担については販売促進に必要な経費について負担しており妥当であったと考えている。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	